港区立赤羽小学校等施設整備
基本構想・基本計画

概要版

第１章　基本構想・基本計画策定の目的等 …… １
第２章　与条件の整理 …… １～２
第３章　赤羽小学校、赤羽幼稚園、放課 GO→クラブあかばね、
　　小規模多機能型居宅介護施設の概要 …… ２
第４章　基本構想 …… ３～５
第５章　基本計画 …… ６～９
第６章　整備スケジュール（案） …… ９
平面計画・断面計画案 …… １０～１１

第１章　基本構想・基本計画策定の目的等　「P1～P3」

１－１　基本構想・基本計画策定の目的　「P1」

・基本構想・基本計画の策定は、港区立赤羽小学校（以下「赤羽小学校」という。）、港区立赤羽幼稚園（以下「赤羽幼稚園」という。）、放課ＧＯ→クラブあかばね（平成 29 年度より事業実施）について以下の施設整備の基本方針に基づき基本的な枠組みをつくることを目的とします。なお、小規模多機能型居宅介護施設については、敷地利用方針に基づき施設の配置について整理します。
・赤羽小学校、赤羽幼稚園については、耐震性を確保しつつも校舎（園舎）が老朽化していることや児童数等の増加が今後も見込まれていることから教育環境の更なる向上を目指し施設整備を進めます。
・放課ＧＯ→クラブあかばねについては、児童数増加に対応する方針とし、必要な面積規模を確保します。
・学校関係者、小学校、幼稚園のＰＴＡ役員や地域の代表等による「港区立赤羽小学校等施設整備基本構想・基本計画策定委員会」（以下「策定委員会」という。）を設置し、赤羽小学校等の施設整備における基本的な考え方について検討を行いました。

第２章　与条件の整理　「P4～P14」

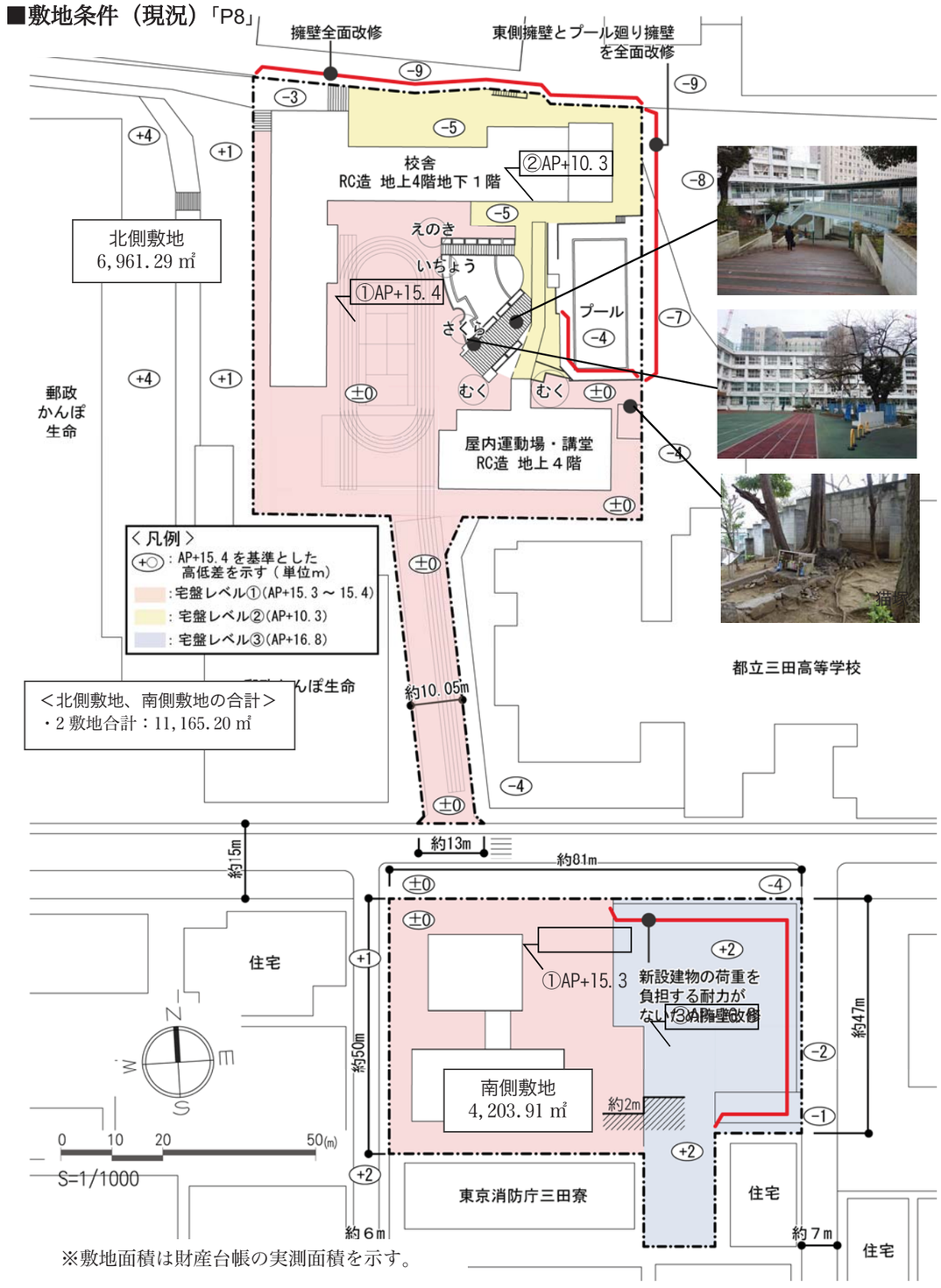
２－１　計画地及び周辺の概況　「P4～P7」

（1）計画地及び周辺通学区域

・計画地は、区の中央部、港区三田一丁目・二丁目に位置しています。
・赤羽小学校、赤羽幼稚園は北側敷地に立地し、道路を挟んだ南側には、取得用地の南側敷地が位置しています。

・所在地
北側敷地：港区三田一丁目１０１番３
南側敷地：港区三田二丁目３７番１０(旧都有地)
　　港区三田二丁目３７番９　(旧国有地)

■敷地条件（現況）「P8」



※敷地面積は財産台帳の実測面積を示す。

２－３ 赤羽小学校・赤羽幼稚園の児童数・園児数の推計 「P14」

（1）赤羽小学校の児童数と学級数の推計

・児童数・学級数の増加は続き、平成 47 年度には児童数が最大 803 名(赤字部分)となり、学級数は、24 学級となります。その後、若干減少しますが、平成 65 年度の児童数 649 名・20 学級(青字部分)から再び児童数が緩やかに上昇し、平成 72 年度には、児童数が 670 名・20 学級となる見込みです。

・以上の推計をもとにし、1 学年 4 学級として、計 24 学級の普通教室を計画します。それ以上の学級数が必要となった場合に備え、転用可能な算数少人数教室、国際科室、生活科室、特別支援教室といった多目的に使用が可能な教室を 6 学級計画します。

年度	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H47	H65	H72
児童数	359	377	411	457	509	533	803	649	670
学級数	14	15	15	15	16	17	24	20	20

（2）赤羽幼稚園の園児数と学級数の推計

・赤羽幼稚園における就園の実績と推計から、4 歳児、5 歳児とも園児数については、増加傾向にあります。平成 31 年度の麻布幼稚園増築に伴う定員増の影響で若干減少しますが、平成 38 年度（計画）からの 3 年保育の開始で、さらに園児数が増加し、これまでの各学年 1 学級から 2 学級に増え 6 学級となります。平成 43 年度に園児数が最大 166 名（赤字部分）となり、その後減少し、平成 61 年度は、132 名（青字部分）となり、再び緩やかに上昇して、平成 72 年度には、園児数 144 名、学級数が 6 学級となります。

・赤羽幼稚園の学級数は、今回、3 歳児から 5 歳児までの計 3 学年の保育とし、各学年 2 学級の計 6 学級分の保育室を計画します。

年度	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
園児数	40	54	54	54	51	52	52	54	57	103
学級数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	4

年度	H39	H40	H43	H61	H72
園児数	130	160	166	132	144
学級数	5	6	6	6	6

※赤羽幼稚園の園児は、芝、麻布、高輪、芝浦港南各地区から通園しており、広域的な通園状況となっています。よって、各地区別の通園児数を分析した上で、就園率を算出し、今後の通園児数を推定しています。

※平成 29 年度は実数となります。
※児童数・学級数の推計値は政策創造研究所が推計した港区人口推計(平成 29 年 3 月)を基礎としています。
※上記表は、数値等が変更になることがあります。

第３章 赤羽小学校、赤羽幼稚園、放課 GO→クラブあかばね、小規模多機能型居宅介護施設の概要 「P15～P21」

・赤羽小学校・赤羽幼稚園の歴史、教育目標、現状の生徒、園児数並びに、放課後 GO→クラブあかばね、小規模多機能型居宅介護施設の概要について記載。

第４章 基本構想 「P22～P31」

４－１ 施設のコンセプトについて 「P22」

本施設整備では、既存校舎（園舎）が竣工から 40 年以上経ち、老朽化していることから改築し、児童数・園児数・学級数の増加による教室数の確保、設置基準の校庭・園庭面積の確保、放課 GO→クラブ定員拡大に対応するため、北側敷地、南側敷地一体で計画して、必要な規模を確保します。

検討を重ねた結果、施設整備における基本的な方針として、地域の歴史や伝統を受け継ぎ、教育環境の更なる向上を目指し、地域の核となる施設として施設のコンセプトについて以下のとおりとします。

（1）伝統・歴史・景観を次代に受け継ぐ、赤羽ならではの学校・幼稚園づくり

1）敷地内の江戸時代から残るむくの木や並木、港区埋蔵文化財包蔵地である猫塚(オセンチ山)などをできる限り残していきます。地域の歴史や伝統を受け継ぎ、園児・児童や地域が誇りに思える学校づくりを目指します。

2）高低差のある敷地の地形を活かしながら、安全性を高めた造成計画・配置計画とします。

（2）自然の光や風、緑に満たされ、感性を刺激する、「徳」「知」「体」を育む学校・幼稚園づくり

1）都心の中で、豊かな自然に触れられる恵まれた環境を残し、光や風を取り込み、自然を感じる、豊かな心を育む環境を創出します。

2）確かな学力を育む多様な学習環境をつくります。

3）園児も児童もそれぞれがのびのびと運動ができ、健やかな体を育む環境をつくります。

（3）赤羽小学校、赤羽幼稚園、放課 GO→クラブ、小規模多機能型居宅介護施設との連携･交流を深め、地域の核となる施設づくり

1）小学校、幼稚園、放課 GO→クラブ、小規模多機能型居宅介護施設が近接している環境を活かし、施設間の連携や交流活動を積極的に行える空間をつくります。

2）地域の豊かな知識・経験を持つ人材を活かした学校運営と、地域の生涯学習の場として地域開放しやすい環境をつくります。

3）教職員が研究・交流しやすい活力溢れる執務環境を目指します。

（4）地域防災の向上に貢献し、防犯性の高い安全・安心な学校づくり

1）区民避難所としての必要な機能を確保し、地域防災の向上に貢献する学校として計画します。

2）隣接する三田高校と連携し、災害時に避難のしやすい計画とします。

3）道路上空通路を設置し、2 敷地間を安全に往来できるように計画します。

4）不審者の侵入を抑制する等、防犯性の高い安全・安心な学校づくりを目指します。

（5）地球環境と共生する学校、地球環境へ貢献する学校づくり

1）地球環境の負荷低減に向けた学校づくりを目指します。

2）園児・児童が環境への学びを深める場をつくります。

４－２ 配置計画の比較について 「P23～P26」

（1）南側敷地の配置計画の比較

・区は、設置基準の校庭面積の確保、小学校校舎の必要面積確保、小規模多機能型居宅介護施設の送迎車と子どもたちの動線分けに配慮し、**南側敷地には小学校校舎及び小規模多機能型居宅介護施設を配置**し、北側敷地には小学校校庭及びプール、幼稚園並びに放課ＧＯ→クラブあかばねを配置することを決定しました。

・南側敷地のうち旧都有地は、小学校用地として活用する土地売買契約時の条件があるため、**小規模多機能型居宅介護施設は、旧国有地内に配置**します。

・また、子どもたちの交通安全に配慮し、小規模多機能型居宅介護施設送迎車の出入口と、小学校正門を離した計画として、以下の３案について比較検討しました。

Ａ案：小学校校舎整形、小規模多機能型居宅介護施設西向き、別棟配置 Ｂ案：小学校校舎Ｌ型、小規模多機能型居宅介護施設南向き、別棟配置 Ｃ案：小学校校舎Ｌ型（1 階２階)、施設間交流が容易な複合施設

上記３案のうち、以下の検討から**Ａ案とします**。

・**安全性**について、Ａ案は、Ｂ案とＣ案に比べ小学校校舎が整形であるため、校舎の廊下を直線で計画しやすく、廊下からの視認性が高まり、より安全な平面計画が可能です。また、別棟案は、敷地の出入りについて、それぞれの施設関係者のみを管理できることから管理運営が行いやすく、運営時間の異なる施設として、非常時の施設責任者が明確で安全性が確保できます。

・**教育活動、交流、連携**について、学校の教室や小規模多機能型居宅介護施設の宿泊施設部分は、通風採光を十分に確保することが重要です。Ｂ案とＣ案は、校舎の形が不整形になる入角部分で、通風採光のとれないスペースが生まれます。それに対し、Ａ案は、整形となり、教室を南側に最大限有効に配置することができます。
また、交流連携については、３案とも近接した位置関係となるため優劣は同等になります。

・**スケジュール**について、Ａ案とＢ案は、小規模多機能型居宅介護施設が別棟であることから、単独で整備し、早期に開設することが可能です。

・**コスト**について、Ｃ案のような複合施設は一般的に、管理スペースや共用スペースの集約化及び維持管理の一元化により､建設費や維持管理費を抑えることができますが、今回の計画では小学校と小規模多機能型居宅介護施設それぞれに独立した動線が必要であり、また、運営が別となるため、それらの効果が見込みにくくなり、3 案のコスト比較はほぼ同等になります。

（2）北側敷地の配置計画の比較

・区は、設置基準の校庭面積の確保、小学校校舎の必要面積確保、小規模多機能型居宅介護施設の送迎車と子どもたちの動線分けに配慮し、南側敷地には小学校校舎及び小規模多機能型居宅介護施設を配置し、**北側敷地には小学校校庭及びプール、幼稚園並びに放課ＧＯ→クラブあかばねを配置**することを決定しました。

・既存小学校、幼稚園敷地である北側敷地は、地形、猫塚、自然環境をできる限り保存し、広い校庭を確保するため、**校庭は敷地西側に配置**します。

・また、地形的特色である敷地東側の地盤が低い部分は、上部に建物を載せたピロティ状にすることで、幼稚園の雨天時の遊び場や、夏季の日影づくりに活用する計画として、以下の２案について比較検討しました。

Ａ案：建物北側配置、整形プラン Ｂ案：建物南側配置、Ｌ型プラン

上記２案のうち、以下の検討から**Ｂ案とします**。

・**安全性**について、Ａ案は、Ｂ案に比べ道路から敷地全体の視認性に優れます。
Ｂ案は、Ａ案に比べ小学校校舎と幼稚園園舎の距離が近く、女性の多い職場である幼稚園として非常時の対応について安心感があります。

・**教育活動、交流、連携**について、Ａ案は園庭に段差があり２つに分かれてしまいますが、Ｂ案はフラットでまとまった広い園庭が確保でき、園児が安心して、のびのびと遊ぶことができます。また、小学校校舎と幼稚園園舎が近いため、幼小の連携が行いやすく、児童の小学校校舎から屋上プールへの移動負担が少なくすみます。

・**コスト**について、Ａ案、Ｂ案はほぼ同等です。